

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	大阪行岡医療大学
設置者名	学校法人行岡保健衛生学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
医療学部	理学療法学科	夜・通信			103	103	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学校法人行岡保健衛生学園ホームページ「情報公開」に掲載 <a href="http://www.yukioka.ac.jp/disclosure/">http://www.yukioka.ac.jp/disclosure/</a>
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大阪行岡医療大学
設置者名	学校法人行岡保健衛生学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人行岡保健衛生学園ホームページ「情報公開」に掲載 <a href="http://www.yukioka.ac.jp/disclosure/">http://www.yukioka.ac.jp/disclosure/</a>
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	医療法人 理事長 (1990. 6. 1～現在)	2019. 10. 27 ～ 2023. 10. 26	円滑な運営の促進
非常勤	元高等教育機関管理職 (1982. 10. 1～2000. 9. 30)	2019. 10. 27 ～ 2023. 10. 26	教育内容の充実
非常勤	元高等教育機関管理職 (1997. 4. 1～2013. 3. 31)	2019. 10. 27 ～ 2023. 10. 26	教育内容の充実
非常勤	医療法人 医師 (1979. 4. 1～現在)	2019. 10. 27 ～ 2023. 10. 26	教育内容の充実
非常勤	医療法人 理事長 (2019. 5. 1～現在)	2021. 11. 27 ～ 2023. 10. 26	円滑な運営の促進
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大阪行岡医療大学
設置者名	学校法人行岡保健衛生学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>作成過程-教務委員会により記載内容を検討し、事務職員より担当教員に作成を依頼する。事務職員により項目記載漏れ等をチェックし、教務委員会により内容をチェックする。</p> <p>作成時期-例年は前年度3月中に冊子の印刷を完了し、学生には4月に実施のオリエンテーション時に配布する。大学ホームページには4月に掲載する。          ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2020年度から2022年度にかけては遠隔授業等の実施により、授業計画の変更等があり、ホームページへの掲載を6月まで延期している。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>授業計画書(シラバス)を冊子にして配布するとともに、大学ホームページ(情報公開)に掲載している。</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学修成果は試験により評価されている。試験は筆記、レポート、実技、口述、論文等により行われ、シラバスに試験方法と配分を明記している。また、授業出席を厳格に管理し、出席率が2/3以上を受験資格としている。</p> <p>前期、後期試験終了後に教務委員会を開催し、試験の適正な合否の比率を審議し、科目間や教員間で標準化を行っている。</p> <p>各科目60点以上を合格とし、必修科目のGPA2.0以上、かつ未修得科目2科目以下を進級基準として、教授会での審議ののち、学長により単位が認定される。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価を GPA に取り入れ、各学年での進級要件に活用している。

2019 年に GPA 制度を変更し、2020 年度入学生より制度を導入した。新制度では成績の評価を A～F の 6 段階とし、A (100 点から 90 点. GP : 4.3)、B (89 点～80 点. GP : 4)、C (79 点～70 点. GP : 3)、D (69 点～60 点. GP : 2)、E (59 点～50 点. GP : 1)、 $GPA = (GP \times \text{単位数}) \text{の合計} / \text{総単位数}$ 〔履修登録単位数〕としており、シラバス等に記載している。各科目は 60 点以上を合格としている。

2016 年度より進級基準に GPA を導入し、卒業認定には卒業試験を取り入れ、学修成果の水準を確認している。

客観的な指標の  
算出方法の公表方法

シラバス及びキャンパスガイドに記載し、配布している。  
また、大学ホームページ（情報公開）にも掲載している。  
年度初めの学生オリエンテーション時にも算出方法を説明している。

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

学位授与の方針を定め、適切に実施している。

【ディプロマポリシー（学位授与の方針）】

教育理念・教育目標を達成すべく、以下のような能力を身につけて、卒業試験に合格した学生を認め、学士（理学療法学）の学位を授与するものとする。

理学療法士の資格（国家資格）を取得できる学力と基本的理学療法が実践できる能力を身につけることを卒業認定の方針とし、リハビリテーション医療を通して社会に貢献することを推奨する。

本学の育成する能力

1. 社会の理解とコミュニケーション能力

少子高齢化が加速し、ますます複雑化する現代社会において、高齢者のリハビリテーションや在宅リハ診療などが行われ、理学療法士としてより一層の柔軟な対応が求められる。そして、理学療法士はその医療行為においてそして、理学療法士はその医療行為においては、患者及び家族と接する時間

も長いと、患者・家族はもとより、連携する多職種の医療技術者を含めて、コミュニケーション能力を育成する。本学の建学の精神である『協同』の精神を修得し、他の医療人とともに医学的・社会的課題を認識できる能力を育成する。

①社会の理解

社会情勢、疾病構造の変化などの情報獲得に努め、理学療法士としての柔軟な対応を思考できる。

②コミュニケーション能力

患者・家族はもとより連携する多職種の医療技術者を含めて、性別や年齢、障害の程度を鑑みて円滑な人間関係を構築する基本的能力と協調性を身につける。

2. 高い専門知識と技術力

医療人としての高い専門知識及び技術を併せ持ち、さまざまな患者の状況に対しても、高次実践できる能力を育成する。また、「適応力豊かな医療人」として対象者への援助意欲が高くもつことができるように指導する。

①専門知識

基本的理学療法を実践するために、知識面では人体の構造や機能、疾患や障害の理解、検査法と検査値の解釈、安全かつ効果的な治療手段の理解について、基本的知識を活用することができる。

②専門技術

基本的理学療法を実践するために、治療目標や基本的なプログラムを立案する思考力を身につけ、基本的な評価及び治療を安全かつ効果的に実施

3. 学問・臨床研究への探究心及び正しい倫理観

学問及び臨床的研究を生涯にわたって、継続、発展できるような向学心と探究心を持つことが求められる。とりわけ臨床的研究においては、研究課題の設定、研究論文の作成など、卒業後も継続して研究活動を行う探求心を継続して持ち続けることが重要である。一方で、研究を行う上での基本的かつ重要な事項として「倫理観」の育成にも重点を置いている。医療技術者としての必要な倫理観が欠如したままでは、卒業後も研究を継続していくことは困難であるため、倫理観の育成にも注力するものである。そのため、医療従事者としての態度や使命感の認識し、自ら向上しようとする行動力と探究心、指導や指示を受けながら状況変化に対応できる適応力を身につける。

卒業の認定に関する 方針の公表方法	ディプロマ・ポリシーは大学パンフレット、キャンパスガイド等に記載し、大学ホームページにも掲載している。卒業要件については、シラバスやキャンパスガイド、大学ホームページ等に掲載し、年度初めの学生オリエンテーション時にも説明している。
----------------------	---

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	大阪行岡医療大学
設置者名	学校法人行岡保健衛生学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学校法人行岡保健衛生学園ホームページ「情報公開」 <a href="http://www.yukioka.ac.jp/disclosure/">http://www.yukioka.ac.jp/disclosure/</a>
収支計算書又は損益計算書	学校法人行岡保健衛生学園ホームページ「情報公開」 <a href="http://www.yukioka.ac.jp/disclosure/">http://www.yukioka.ac.jp/disclosure/</a>
財産目録	学校法人行岡保健衛生学園ホームページ「情報公開」 <a href="http://www.yukioka.ac.jp/disclosure/">http://www.yukioka.ac.jp/disclosure/</a>
事業報告書	学校法人行岡保健衛生学園ホームページ「情報公開」 <a href="http://www.yukioka.ac.jp/disclosure/">http://www.yukioka.ac.jp/disclosure/</a>
監事による監査報告(書)	学校法人行岡保健衛生学園ホームページ「情報公開」 <a href="http://www.yukioka.ac.jp/disclosure/">http://www.yukioka.ac.jp/disclosure/</a>

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	
中長期計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 学校法人行岡保健衛生学園ホームページ「情報公開」 <a href="http://www.yukioka.ac.jp/disclosure/">http://www.yukioka.ac.jp/disclosure/</a>
---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 学校法人行岡保健衛生学園ホームページ「情報公開」 <a href="http://www.yukioka.ac.jp/disclosure/">http://www.yukioka.ac.jp/disclosure/</a>
---

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 : 医療学部理学療法学科
教育研究上の目的 (公表方法: 大学パンフレット、大学ホームページ、キャンパスガイド等)
(概要) 【教育理念と目標】 本学の建学の精神は「医療は医師のみの力では行えるものではなく、多くの医療技術者との『協同』の上に成り立つものだ。より良い医療を実現するためには、良い医師と良い医療技術者が必要である。」との考えに立っている。 この建学の精神は、医療に従事するものに求められる多職種との《協働の意識》及び《必要な連帯感》を示したものであり、これに基づいて本学においては、「幅広い専門知識、技術を修得し、且つ医療及び社会に対して豊かな適応力を有し、加えて探究心を継続できる心を持った医療人を育成すること」をその教育理念として掲げている。 そして、医学領域を主にした学問を基盤に、理学療法士として必要な高い専門知識と技術の修得、学問への絶えざる探究心の育成、患者の心理の理解と援助に努め、日々の自己研鑽及び研究への継続した取り組みなど、幅広い教養を身につけた適応力豊かな医療人の育成を目標とし、リハビリテーション医療を通して社会に貢献することを教育目標としている。 また更に加速する高齢化社会に対応すべく、高齢者にとっても医療施設内のみならず、在宅における生活の場での訓練を行い、健康寿命を延ばすことを目的として、日常的な動作が身につくリハビリを実践できるための知識や技術の修得を含め、社会の要請の応えることのできる理学療法士を育成することを目標とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: 大学パンフレット、大学ホームページ、キャンパスガイド等)
(概要) 【ディプロマポリシー(学位授与の方針)】 教育理念・教育目標を達成すべく、以下のような能力を身につけて、卒業試験に合格した学生に卒業を認め、学士(理学療法学)の学位を授与するものとする。 理学療法士の資格(国家試験)を取得できる学力と基本的理学療法が実践できる能力を身につけることを卒業認定の方針とし、リハビリテーション医療を通して社会に貢献することを推奨する。 本学の育成する能力 1. 社会の理解とコミュニケーション能力 少子高齢化が加速し、ますます複雑化する現代社会において、高齢者のリハビリテーションや在宅リハ診療などが行われ、理学療法士としてより一層の柔軟な対応が求められる。そして、理学療法士はその医療行為においては、患者及び家族と接する時間も長いため、患者・家族はもとより、連携する多職種の医療技術者を含めて、コミュニケーション能力を育成する。 本学の建学の精神である『協同』の精神を修得し、他の医療人とともに医学的・社会的課題を認識できる能力を育成する。 ①社会の理解 社会情勢、疾病構造の変化などの情報獲得に努め、理学療法士としての柔軟な対応を思考できる。 ②コミュニケーション能力 患者・家族はもとより連携する多職種の医療技術者を含めて、性別や年齢、障害の程度を鑑みて円滑な人間関係を構築する基本的能力と協調性を身につける。 2. 高い専門知識と技術力



医療人としての高い専門知識及び技術を併せ持ち、さまざまな患者の状況に対しても、高次に実践できる能力を育成する。また、「適応力豊かな医療人」として対象者への援助意欲が高くもつことができるように指導する。

①専門知識

基本的理学療法を実践するために、知識面では人体の構造や機能、疾患や障害の理解、検査法と検査値の解釈、安全かつ効果的な治療手段の理解について、基本的知識を活用することができる。

②専門技術

基本的理学療法を実践するために、治療目標や基本的なプログラムを立案する思考力を身につけ、基本的な評価及び治療を安全かつ効果的に実施することができる。

3. 学問・臨床研究への探究心及び正しい倫理観

学問及び臨床的研究を生涯にわたって、継続、発展できるような向学心と探究心を持つことが求められる。とりわけ臨床的研究においては、研究課題の設定、研究論文の作成など、卒業後も継続して研究活動を行う探求心を継続して持ち続けることが重要である。一方で、研究を行う上での基本的かつ重要な事項として「倫理観」の育成にも重点を置いている。

医療技術者としての必要な倫理観が欠如したままでは、卒業後も研究を継続していくことは困難であるため、倫理観の育成にも注力するものである。

そのため、医療従事者としての態度や使命感の認識し、自ら向上しようとする行動力と探究心、指導や指示を受けながら状況変化に対応できる適応力を身につける。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：大学パンフレット、大学ホームページ、キャンパスガイド等)

(概要)

【カリキュラムポリシー(教育課程の編成方針)】

教育目標及びディプロマポリシー(学位授与の方針)を達成させるため、カリキュラムポリシーを以下のごとく定め、教育課程編成に配慮している。

①ディプロマポリシーで掲げる3つの能力を養成する体系的な教育課程として『教養教育科目』、『専門基礎科目』、『専門科目』に区分して編成する。

②科目区分の各科目は社会人としての基礎能力の習得、医療人としての基礎能力の習得、理学療法士としての臨床能力の習得へと段階的に基礎から応用へとつながるように配当年次を組み、4年間を通じて一貫して効果的に学習できるように配置する。

③将来の理学療法士としての自覚を早期から促すため、1年次に臨床現場の見学などの機会を設ける。

④適応力豊かな医療人育成のため、コミュニケーション能力と幅広い教養の修得を目的として、教養教育科目の充実を図り、幅広く人間や社会をとらえられる人材を育成できる科目設定を行なう。

⑤本学が目指す人材は、臨床現場で十分な能力が発揮できる実学を備えることが必要であり、理学療法士を修得するに当たっては、理学療法士国家試験に該当する科目は勿論のこと、理学療法士として能力を発揮するために欠くことのできない重要科目の履修は必修とした。

⑥確かな技術と知識の応用力を身につけ、向学心や探求心とともに教育効果を高めるため、演習科目を多く設定し、グループワーク、報告を兼ねた反転授業を取り入れる。

⑦効果的な学習が遂行できるように、高等学校までの科目を再学習するリメディアル教育や自己表現能力を高めるために初年次教育を取り入れる。

⑧学習の評価にGPA(グレード・アベレージ・ポイント)を採用し、不合格科目数とともに進級要件に加える。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：大学パンフレット、大学ホームページ、キャンパスガイド等)

(概要)

【アドミッションポリシー(入学者受入方針)】

本学は、リハビリテーション医療を通して社会に貢献する理学療法士を育成することを目的とし、医学的社会的課題を認識し、対象者への援助意欲が高く、専門知識と技術を修得できる十分な学力と素養を持った学生を求めている。

学生を受け入れるにあたっては、学生として学業にまじめに取り組み、理学療法士をめざす動機を明確に持ち、強い志望意欲を持ったポテンシャルの高い学生を基本的に受け入れることを方針としている。

入学前に身につけてほしいこと

- ・入学前から人体の構造と機能及び生活活動に関心を持ってもらいたい
- ・入学後の学習を円滑に遂行するため、国語・理科・数学・社会・英語の基礎知識は必要である。特に、生物は関連の深い科目であるので確実な習得を目指してほしい。
- ・理学療法は多種多様な人々と関わるため、社会状況の関心及びコミュニケーション能力としての言語・文章の理解力と表現力は入学前に身につけておいて頂きたい。
- ・リハビリテーションはチーム医療であるため、入学後には主体的な行動とチームの一員として協調性のある行動は十分に経験を積んで頂きたい。

入学選抜においては、「学力の3要素(①知識・技能②思考力・判断力・表現力③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)」を、学力試験、面接試験、調査書などにより適切に多面的・総合的に評価する。特に学生の選抜にあたっては、学力試験のみならず、面接試験においても志望動機の確認や本人の将来への展望などを勘案して、合否の結果を検討する。調査書に記載されている高等学校等での学修内容についても、その中身を詳細に分析し、学生の選抜における要因とする。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法:学校法人行岡保健衛生ホームページ「情報公開」

<http://www.yukioka.ac.jp/disclosure/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
医療学部理学療法学科	—	13人	1人	4人	6人	人	24人
	—	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
人		28人					28人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：大阪行岡医療大学紀要 大学ホームページ「教員紹介」( <a href="http://www.yukioka-u.ac.jp/department/physical_therapist/">http://www.yukioka-u.ac.jp/department/physical_therapist/</a> )及びJ-GLOBAL					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
医療学部	80人	55人	0.68%	320人	267人	0.83%	0人	0人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	80人	55人	0.68%	320人	267人	0.83%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
医療学部	47人 (100%)	0人 (0%)	43人 (91.5%)	4人 (8.5%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	47人 (100%)	0人 (%)	43人 (91.5%)	4人 (8.5%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
行岡病院、その他医療機関及び福祉施設				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
合計	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>ディプロマ・ポリシーに掲げる3つの能力を養成する体系的な教育課程として、カリキュラムマップに基づき、段階的、階層的に学べるように、科目区分、配当学年及び前後期の開講時期、さらに科目ごとの必修・選択の別、講義・演習・実習の授業形式、授業時間数と単位数を編成している。</p> <p>各授業科目の期間は原則として前期、後期それぞれ15週とし、試験等の期間も含め原則として35週としている。</p> <p>教育課程は、『教養教育科目』『専門基礎科目』『専門科目』に区分して編成している。</p>
---

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>進級要件について、「1」原則として、各学年における必修科目のGPAが2.0以上かつ未修得科目が2科目以下の場合には進級できる。留年の場合は、選択科目は単位認定するが、必修科目は全て再履修（臨床実習は除く）とする。進級者においても必修の未修得科目は、次年度に再履修すること。2）「臨床評価実習」を履修するにあたり、「臨床体験実習」を修得しておかなければならない。「臨床総合実習」を履修するにあたり、「3年次までの全必修科目96単位を修得しておかなければならない。」としている。</p> <p>卒業要件は「教養教育科目の必修20単位及び選択6単位以上、専門基礎科目の必修41単位及び選択2単位以上、専門科目の必修55単位及び選択2単位以上の合計126単位以上を修得し、卒業試験に合格すること。」</p>				
学部名	学科名	卒業に必要な 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
医療学部	理学療法学科	126 単位	有	1年次 40 単位 2年次以降 39 単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：学校法人行岡保健衛生学園ホームページ「情報公開」 <a href="http://www.yukioka.ac.jp/disclosure/">http://www.yukioka.ac.jp/disclosure/</a>		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：大学ホームページ「大学案内」 <a href="http://www.yukioka-u.ac.jp/about/">http://www.yukioka-u.ac.jp/about/</a>		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大学ホームページ(<http://www.yukioka-u.ac.jp/about/campusguide/>)  
 大学パンフレット(インターネットでの請求方法 <http://www.yukioka-u.ac.jp/request-u/>) (大学事務局へ電話・郵便での請求)

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
医療学部	理学療法 学科	1,000,000円	300,000円	600,000円	実験実習費 30万円、施設設備 費 30万円
		円	円	円	
		円	円	円	
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>クラス担任制、オフィスアワー制度などにより教員一同が学生生活、学修態度や成績の把握に努め、学修進行の相談や支援体制を整えている。</p> <p>入学前教育を実施し、物理や生物など入学後に必要な科目の基礎を再学習する機会や入学後に学ぶ科目の導入学習の機会を設けている。また、初年次教育の一環として、基礎ゼミナール(科目外)を開講し、生物・物理・数学・国語の補講を実施している。</p> <p>学修評価や出席状況を保護者に報告している。また、保護者の希望や必要に応じて保護者と教職員が面談・相談に応じる体制を整えている。</p> <p>国家試験対策として、年間計画を立て、模擬試験や補講、学修相談を実施している。</p> <p>学修理解度の向上を促すだけでなく、学修意欲の継続性や精神的安定、生活基盤を整えることも学修支援と捉えている。</p> <p>大学キャンパス内はバリアフリー化を行っており、身体に障がいのある学生への配慮もされている。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>理学療法士の資格(国家試験)を取得できる学力と基本的理学療法が実践できる能力を身につけることを卒業認定の方針とし、リハビリテーション医療を通して社会に貢献することを推奨している。そのため、医療及び理学療法の社会的役割や使命、社会人としての振る舞いなどを入学早期より理解するために、科目として1年次に「キャリアセミナー」を設けている。また、1年次に関連施設である行岡病院での臨床現場を見学する機会を設け、学習目標や動機の確立に努めている。</p> <p>求人情報は就職担当教員が中心となり担任も随時補助する形で、学内掲示板とキャリア支援室のファイル、学内のクラウドコンピューターシステムの共有フォルダで提供している。就職相談は就職担当教員や最終学年次の担任があたっている。卒業生や在校生の行った施設見学や就職試験の報告書は整理され、学生の求めに応じてその情報を提供している。8月の上旬には就職説明会を催して合計約60施設のブースで学生に対して施設の説明を聞く機会を持っている。就職担当教員は、履歴書の書き方、電話の応対、面接試験の模擬場面での練習などのサポートを行っている。</p>

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

学生の心身に関する支援として、学生の悩みや困り事の相談等の心的支援に関しては学生相談室が担い、保健管理室(校医、行岡病院)や大学事務局、法人本部事務局と連携しながら適切に行っている。また、心的支援に関しては、クラス担任を含む全教員も支援に当たることを基本としている。健康診断(各種検査)や行岡病院の医師を兼ねる教員による健康相談を含め、身体的側面の健康支援に関しては保健管理室が担い、行岡病院との連携が可能な本学の特徴を活かして適切に機能させている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：

「大阪行岡医療大学紀要」(教職員、実習関連施設などに配布、事務局に申し込みで入手可能)

・大学ホームページ「教員紹介」

[http://www.yukioka-u.ac.jp/department/physical\\_therapist/](http://www.yukioka-u.ac.jp/department/physical_therapist/)